USB デジタルオーディオプロセッサー

MSE-U77

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書とともに大切に保管してください。

ソフトウエア使用許諾契約

ソフトウエアの包装を開封される前に、下記のソフトウエア使用許諾契約書を必ずお読みください。本ソフトウエアは下記使用許諾契約書の内容をご承諾いただいた場合にのみ、ご使用いただけます。もし、開封された場合には、下記使用許諾契約書にご承諾いただけたものとします。
本ソフトウエア製品（CD-ROM 等の記憶媒体に記録されたプログラム、データなど）は、万国著作権条約により、株式会社フェイス（日本国〒604-0982京都市中京区御幸町夷川上ル松本町583-1）あるいは各ソフトウエアの制作会社の権利として日本国著作権法で保護されております。また、その他の財産権においても株式会社フェイスあるいは各ソフトウエアの制作会社が保有しております。
第 1 条
(a) 本ソフトウエア製品は 1 台のコンピュータのみに使用することができます。
(b) バックアップ用にのみ本ソフトウエア製品の複製を一部作成することができます。
本ソフトウエア製品の購入者は、株式会社フェイスが提供した本ソフトウエア製品に付された著作権表示を複製したものに付されなければなりません。
(c) 本ソフトウエア製品を第三者に譲り渡す場合は、関連書籍及びバックアップコピーと共に譲渡し、第三者に本契約条項を検討の上これに同意することを条件とします。
第 2 条
上記第一条(c)の場合を除いて、購入者は本ソフトウエア製品及びその複製物を販売、貸与、領付、移転その他の方法で、第三者に使用させることはできません。
第 3 条
購入者への予告なしに、本ソフトウエア製品の仕様を変更することがあります。
第 4 条
株式会社フェイスあるいは各ソフトウエアの制作会社は、本ソフトウエア製品を使用、又は使用できなかったことにより派生的、付随的又は間接的な一切の損害については、例えそのような損害の発生があらかじめ知らされていた場合でも、購入者に対し何らの責任を負いません。
第 5 条
購入者が本契約の 1. に違反した場合あるいは著作権法に違反したときに、本使用許諾は株式会社フェイスからの何らの通告なしに自動的に終了するものとします。そのときは、購入者は直ちに本ソフトウエア製品およびその複製物をすべて破棄していただかなくてはなりません。また、購入者は本ソフトウエア製品およびその複製物をすべて破棄することにより、いつでも本使用許諾を終了させることができます。

はじめに

このたびは、WAVIO(ウェイビオ) USB デジタルオーディオプロセッサーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。
・ 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、MacOS の基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
・ 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
・ 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
・ 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
・ 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。
・ 本書に記載されているハードウエアおよびソフトウエアの名称は、各社の商標もしくは登録商標です。
・ WAVIO Sound Engine の名称、ロゴはオンキヨー株式会社の商標です。
・ WebSynth の名称、ロゴは株式会社フェイスの商標です。
・ Opcode、OMS は、Opcode System,Inc. の商標です。
・ BIAS、Peak le は米国 BIAS 社の登録商標です。
・ Apple、MacOS、Apple ロゴ、Macintosh、Mac、iMac、iBook、Power Macintosh G3、Power Macintosh G4、PowerBook は、米国 Apple Computer,Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
・ Acrobat は Adobe 社の登録商標です。

特長

■ USB 接続でオーディオクォリティのサウンドが実現
■ 2 ポートハブ機能搭載
■ 画期的音源 & サウンドフォーマット、ソフトウェア MIDI 音源 WebSynth 搭載
■ ステレオ波形編集ソフト Peak le をバンドル

目次

安全にお使いいただくために

ご使用の前に

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

ACアダプターをコンセントから抜いてください

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、当社サポートセンターに修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーは外さない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでください。内部の点検・ 整備・修理は当社サポートセンターに依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V 以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

風呂場では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

本機の上に、花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります

■ 中に水や異物が入ったら

ACアダプターをコンセントから抜いてください

万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントからぬいて当社サポートセンターにご連絡ください。

■ AC アダプターのコードを傷つけたり、加工しない

- ACアダプターのコードが傷んだら（芯線の露出、断線など）当社サポートセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- AC アダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものを載せてしまうことがあります。
- AC アダプターのコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

安全にお使いいただくために

■ 落としたり、破損した状態で使用しない。

ACアダプターをコンセントから抜いてください

万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。AC アダプターをコンセントから抜き、必ず当社サポートセンターにご相談ください。

■ 雷が鳴り出したら機器に触れない。

雷が鳴り出したら、製品本体や AC アダプターには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台や、ぐらついたり、台の上や傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他の機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

本機を他の USB 機器やオーディオ機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は、指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 本機に乗ったり、ふんだりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■ AC アダプターの注意

- AC アダプターを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- AC アダプターを抜くときは、コードを引っぱらないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、AC アダプターを持って抜いてください。

- AC アダプターのコードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

ACアダプターをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず AC アダプターをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず AC アダプターをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

ACアダプターをコンセントから抜いてください

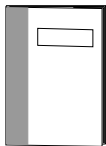
お手入れの際は、安全のため電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2 年に 1 回程度の機器内部の掃除をお勧めします。最寄りの当社サポートセンターにご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても当社サポートセンターにご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

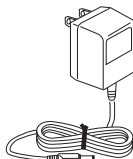
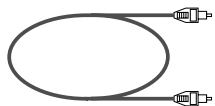
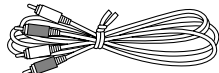
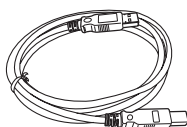
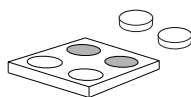
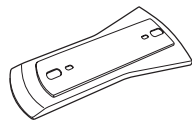
- 表面の汚れは中性洗剤を薄めた液に布を浸し、固く絞って拭きとった後、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

製品構成（付属品）

本機には次のものが同梱されています。お確かめください。(　)内の数字は数量を表わしています。

インストールマニュアル（本書 1）

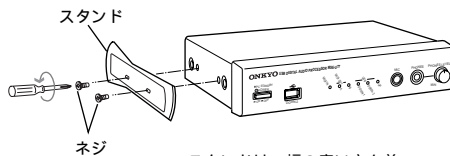
保証書兼お客様登録カード（1）

インストール CD-ROM（1）

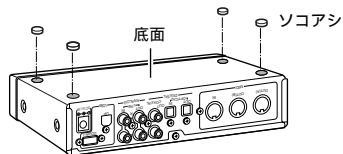
USB デジタルオーディオプロセッサー（本体）（1）

AC アダプター（1）

光デジタルケーブル（1）

オーディオ用ピンコード（1）

USB ケーブル（1）

ソコアシ（4）

スタンド（1）

スタンド取り付け用ネジ（2）

■ スタンドの使い方

本機を立ててお使いになりたいときは、付属のスタンドを取り付けてください。カバーの向かって左側にスタンド取り付け用の穴があいています。スタンドを本機に添わせて、ネジで固定してください。

※ スタンドは、幅の広い方を前へもってきても構いません。

■ ソコアシの使い方

本機を横置きでお使いになるときは、本機底面の窪みにソコアシを貼りつけてください。

各部の名称と接続のしかた

■ 接続を始める前に

MSE-U77 を Macintosh 本体に接続する前に、下記の点について必ずご確認ください。

必要なシステム構成

- iMac、iBook、または標準で USB 端子を持つ PowerMacintosh 及び PowerBook シリーズ
- 20 MB 以上のハードディスク空き容量
- 32 MB 以上の RAM (推奨 64 MB 以上)
- CD-ROM ドライブ（または相当品）
- MacOS 9.0.4 ＋ Multimedia Update J - 1.0 以降

MacOS について

MacOS9.0.2 以降が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

※本機は MacOS9.0 以前のシステムでは動作しません。現在ご使用のシステムソフトウェアが MacOS9.0 の場合 MacOS9.0.4 ＋ Multimedia Update J - 1.0 以降へシステムソフトウェアのアップデートが必要です。システムソフトウェアのアップデートについては、Macintosh本体の説明書をご参照ください。

CD-ROM ドライブについて

USB デジタルオーディオプロセッサーをセットアップするためのソフトウェアは、CD-ROM に収められていますので、CD-ROM ドライブが必要です。セットアップする前に、CD-ROM ドライブが使用可能であることをご確認ください。

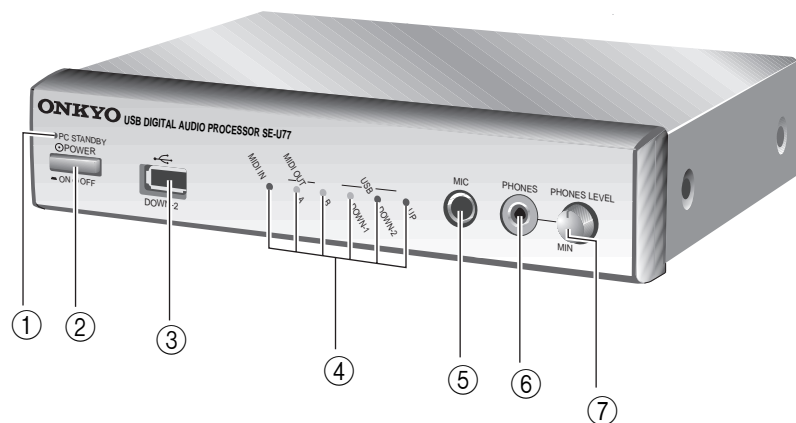
OMS（Open Music System）について

オプコード社の Open Music System（OMS）は、MIDI アプリケーションと MIDI デバイス間のコミュニケーションを可能にするソフトウェアです。
ミキサー、および MSE-U77 に添付されているソフトウェア MIDI 音源「WebSynth」を、MIDI アプリケーションで使用するには OMS をセットアップする必要があります。
OMS については、本マニュアルの「ミキサーの使い方」、および「MIDI の再生」の項目をご確認ください。

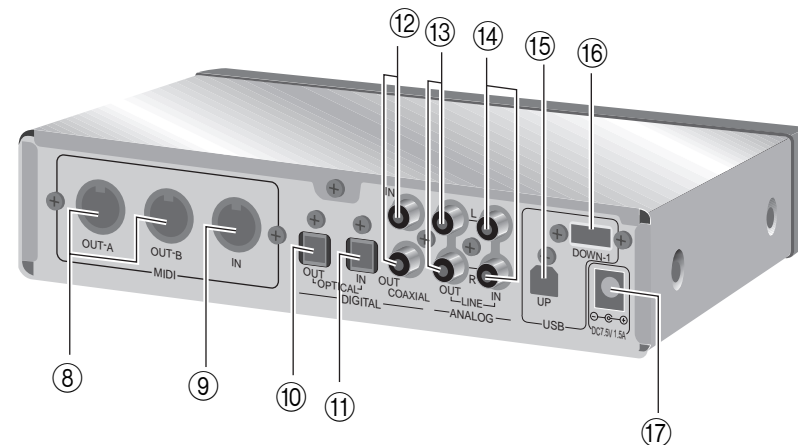
ご注意

標準でUSBポートを持たないMacintoshはサポートの対象外です。PCIボードなどによりUSBポートを増設している Macintosh については本機の動作が正常に行われない場合があります。

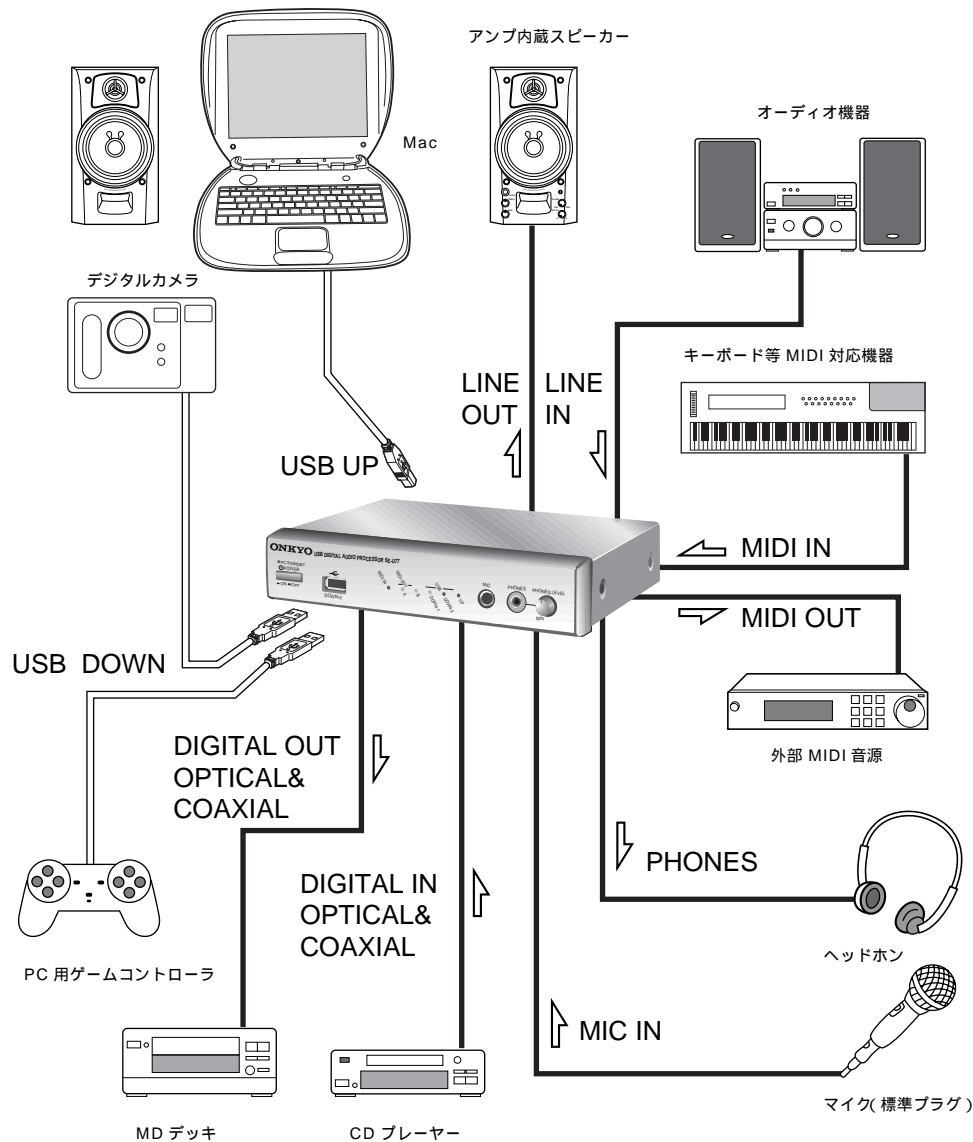
> 必要動作環境を満たすMacintoshであっても、Macintoshシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機の動作が正常に行なわれない機種があります。本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は巻末記載のホームページにてご確認ください。

■ 前面

① PC スタンバイ表示(PC STANDBY)
　消灯：本機の電源が入っていないとき(POWER ▲ OFF)
　オレンジ：本機の電源は入っているが、Mac の電源が入っていない、もしくは接続されていないとき。
　緑：本機が Mac を認識しているとき
　　(本機と本機を接続した Mac の両方の電源が入っているとき)
② 電源スイッチ(POWER ▬ ON ▲ OFF)
③ USB ダウンポート(•⇠ DOWN-2)
④ 動作確認用表示(MIDI IN/MIDI OUT A、B/USB DOWN-1、DOWN-2、UP)
⑤ マイク入力端子 (MIC)
⑥ ヘッドホン端子(PHONES)
⑦ ヘッドホンレベル調整つまみ(PHONES LEVEL MIN/MAX)

各部の名称と接続のしかた

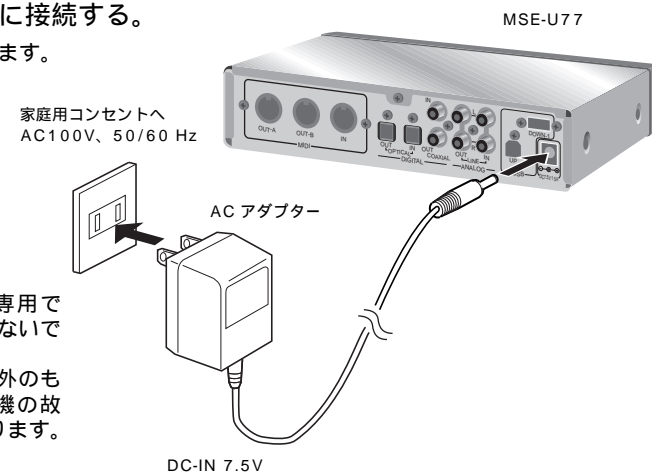
■ 後面

⑧ MIDI 出力端子(MIDI OUT-A/MIDI OUT-B)
⑨ MIDI 入力端子(MIDI IN)
⑩ デジタル光出力端子(DIGITAL OPTICAL OUT)
⑪ デジタル光入力端子(DIGITAL OPTICAL IN)
⑫ デジタル同軸入出力端子(DIGITAL COAXIAL IN/OUT)
⑬ ライン出力端子(ANALOG LINE OUT L/R)
⑭ ライン入力端子(ANALOG LINE IN L/R)
⑮ USB アップポート(USB UP)
⑯ USB ダウンポート(USB DOWN-1)
⑰ DC IN 端子(DC IN 7.5V)

■ USB PC オーディオシステム例

アンプ内蔵スピーカー
Mac
オーディオ機器
デジタルカメラ
キーボード等 MIDI 対応機器
LINE OUT
LINE IN
USB UP
MIDI IN
MIDI OUT
USB DOWN
外部 MIDI 音源
DIGITAL OUT OPTICAL& COAXIAL
PHONES
DIGITAL IN OPTICAL& COAXIAL
ヘッドホン
PC 用ゲームコントローラ
MIC IN
マイク（標準プラグ）
MD デッキ
CD プレーヤー

■ AC アダプターを本機に接続する。

付属の AC アダプターを使用します。

ご注意

付属の AC アダプターは本機専用です。他の機器には絶対に使用しないでください。
また、指定の AC アダプター以外のものをお使いになりますと、本機の故障・火災の原因となることがあります。

■ パソコンへ本機を接続する。

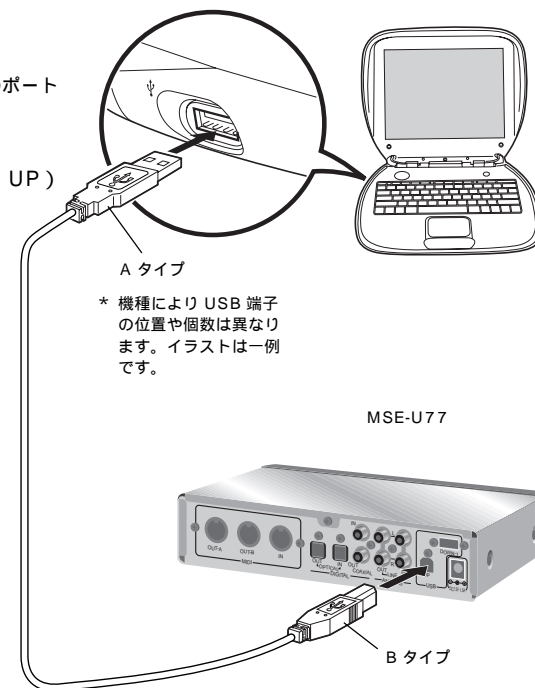
1. 付属の USB ケーブルの A タイプのジャック（▭）を Mac へ接続する。

ヒント

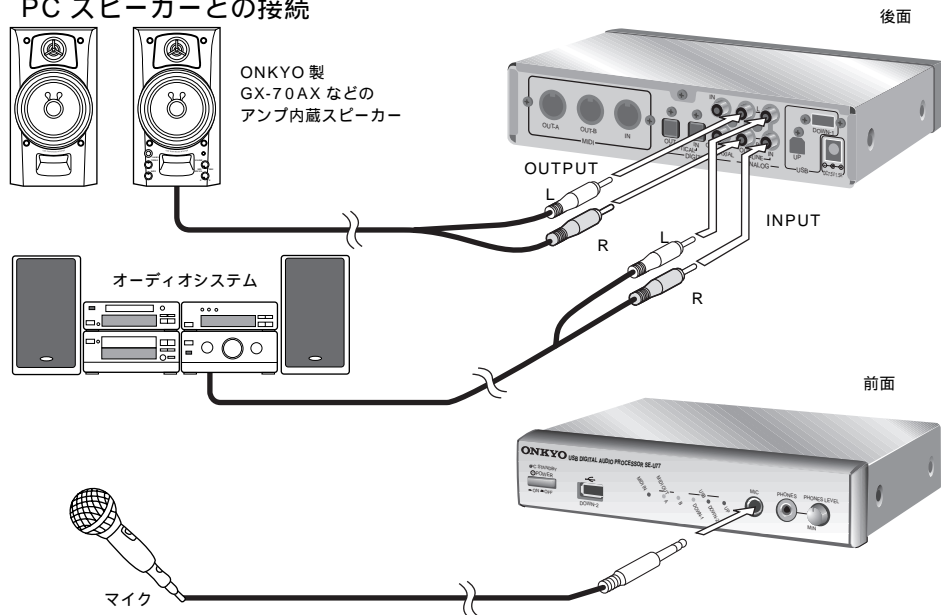
Mac の USB ポートが 2 個以上ある場合はどのポートに接続しても構いません。

2. B タイプのジャック(□)を MSE-U77 の USB アップポート（USB UP）へ接続する。

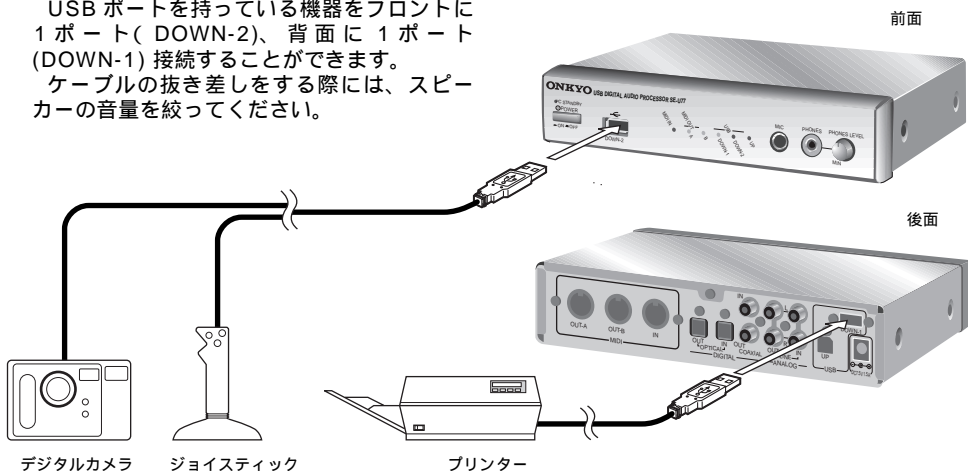
ご注意

端子の抜き差しをする場合にはスピーカーの音量を絞ってください。

周辺機器との接続

USB ケーブル以外の接続をするときは、接続する機器の電源を切ってから行ってください。

■ オーディオシステムとの接続
■ マイクとの接続
■ PC スピーカーとの接続

■ USB ポートを持っている機器(デジタルカメラやジョイスティック、プリンターなど)との接続

USB ポートを持っている機器をフロントに 1 ポート (DOWN-2)、背面に 1 ポート (DOWN-1) 接続することができます。

ケーブルの抜き差しをする際には、スピーカーの音量を絞ってください。

ソフトウェアのセットアップ

本マニュアルではチュートリアル形式で、各ソフトウェアのセットアップを説明しています。
ソフトウェアによっては正しい順序でセットアップしていない場合、認識できないことがあります。本マニュアルの順序でセットアップすることを推奨します。

■デバイス認識の確認(14 ページ)

・この章では、本機(MSE-U77)が正常に認識しているか確認します。USB 標準搭載の Macintosh シリーズで MacOS のバージョンが 9.0.4 以降であれば本機を正常に認識することができます。

■ミキサーの使い方(15 ～ 24 ページ)

・この章では、OMS のインストール、OMS の設定、ミキサーの使い方を説明します。

■ AIFF と音楽 CD の再生(25 ページ)

・この章では、AIFF ファイルと音楽 CD を本機(MSE-U77)にて再生します。正常に再生できない場合は、本章および「デバイス認識の確認」をご確認ください。

■ MIDI の再生(26 ～ 32 ページ)

・この章では、ソフトウェア MIDI 音源 WebSynth を使用して MIDI ファイルを再生します。

■ハードディスクレコーディング(35 ～ 39 ページ)

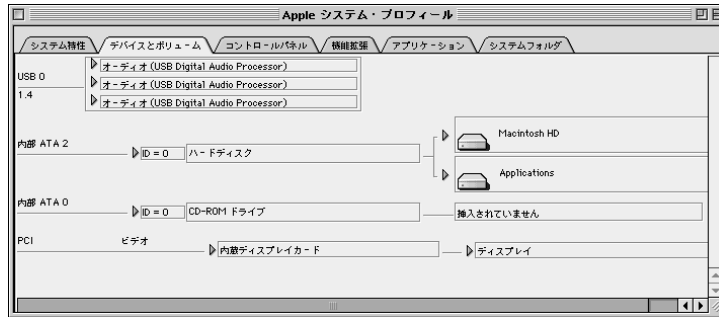
・この章では、本機にバンドルのステレオ波形編集ソフト Peak le を使用した、ハードディスクレコーディングをおこないます。

※ CD-ROM について
本機に付属の CD-ROM には、各種ソフトウェアおよび本マニュアルのチュートリアルで使用するサンプルファイルなどが含まれています。詳しくは CD-ROM のルートにある Menu.html をご確認ください。

※収録ソフトウェアについて

デバイス認識の確認

■　デバイスの確認

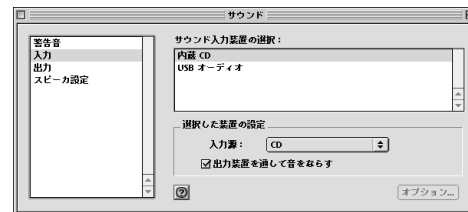
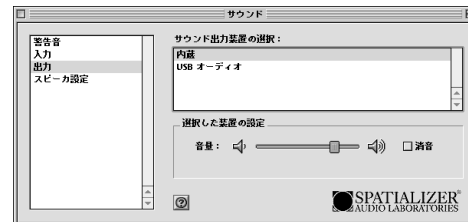
MSE-U77 を Macintosh の USB ポートに接続します。アップルメニューから「Apple システム・プロフィール」を開き、「デバイスとボリューム」タブを選択します。
正常に接続されている場合には「USB」の欄に「オーディオ(USB Digital Audio Processor)」と表示されます。

■　オーディオデバイスの確認

アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」を開き、サウンド入力装置、サウンド出力装置に「USB オーディオ」が表示されているか確認します。「USB オーディオ」が表示されていない場合、システムソフトウェアのバージョンが対応していない可能性があります。システムソフトウェアのバージョンを確認して必要なアップデート処理をおこなってください。

♪ヒント

必要な動作環境を満たすシステム構成でもサウンド装置の欄に「USB オーディオ」が表示されない場合は、MSE-U77 から USB ケーブルを抜き差ししてデバイスを再認識させてください。

入力

出力

■　USB オーディオの設定

アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」を開き、「出力」を選びます。「サウンド出力装置の選択」を「USB オーディオ」に設定します。

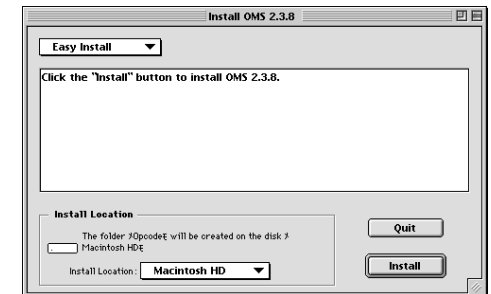
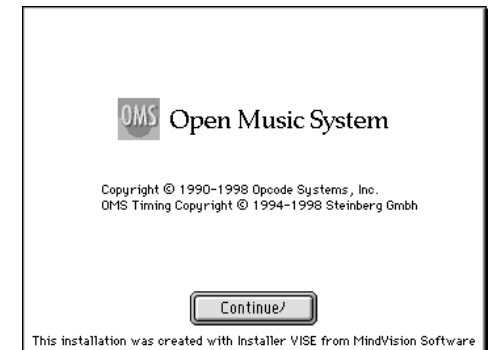
※QuickTime プレーヤーが開いているときは変更できませんので、一度閉じてから設定してください。

ミキサーの使い方

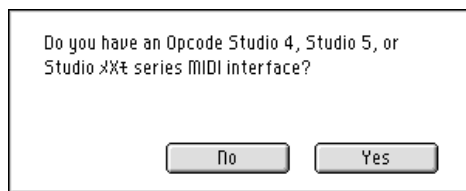
■　OMS のインストール

オプコード社の Open Music System(OMS)は、MIDI アプリケーションと MIDI デバイス間のコミュニケーションを可能にするソフトウェアです。ミキサーおよび MSE-U77 に添付されているソフトウェア MIDI 音源「WebSynth」を、MIDI アプリケーションで使用するにはOMSをセットアップする必要があります。OMS をインストールする場合は、付属のCD-ROM内の「OMS」フォルダにある「Install OMS 2.3.8 」をダブルクリックしてください。

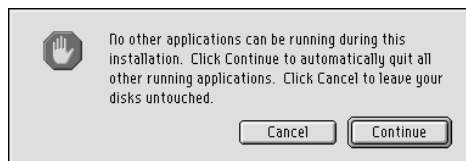
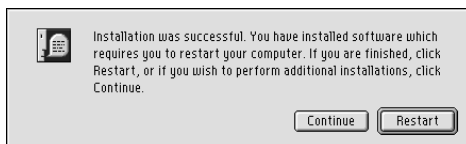
1. インストール画面にしたがって「Continue」をクリックします。

2. 「Easy Install」を選択し、「Install」をクリックします。

3.「オプコード社の Studio 4、Studio 5、あるいは Studio シリーズの MIDI インターフェースを入れていますか。」と聞いてきますので、ご使用の Macintosh の環境に合わせて「No」「Yes」をクリックします。他の MIDI アプリケーションを使用していない場合は「No」をクリックします。

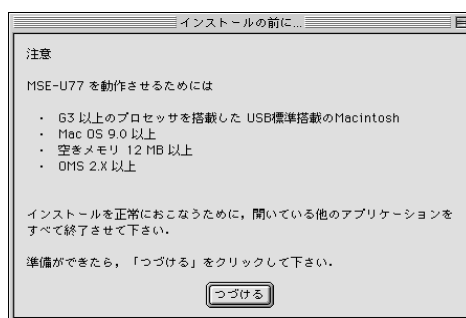
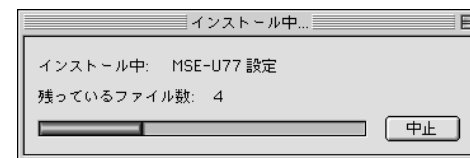
Do you have an Opcode Studio 4, Studio 5, or Studio XXt series MIDI interface?

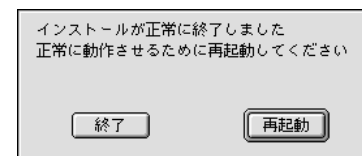
No　Yes

4.「Continue」をクリックします。現在実行中のアプリケーションが自動的に終了し、インストールが始まります。

No other applications can be running during this installation. Click Continue to automatically quit all other running applications. Click Cancel to leave your disks untouched.

Cancel　Continue

5. OMS のインストールが完了しました。「Restart」をクリックし、Macintosh を再起動します。

■ ミキサーのインストール

1. 付属の CD-ROM 内の「」フォルダにある「MSE-U77 USB Install」をダブルクリックしてください。

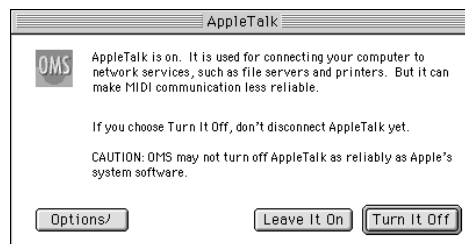
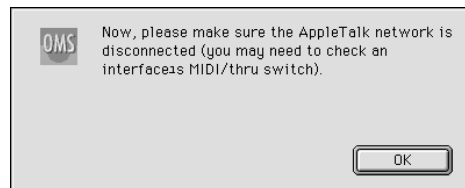
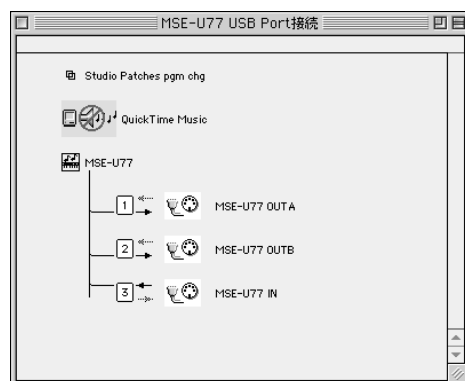
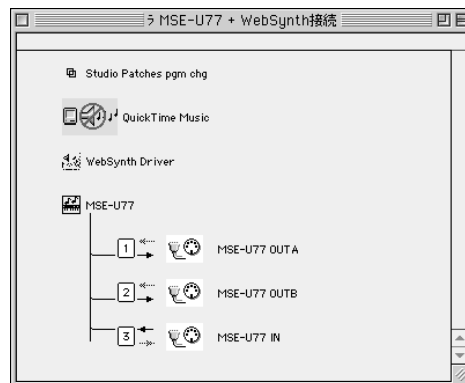
2.「つづける」をクリックします。

3.「インストール」をクリックします。

4. ミキサーのインストールが完了しました。「再起動」をクリックし、Macintoshを再起動します。

■ OMS の設定

1. ミキサーをインストールしたハードディスクのルートにある「MSE-U77 USB」フォルダを開きます。

2. OMS のスタジオセットアップ書類を開きます。「MSE-U77 + WebSynth 接続」をダブルクリックします。

「MSE-U77 + WebSynth 接続」は音源として本機付属のソフトウェアMIDI音源WebSynthを使用する場合の設定書類、「MSE-U77 + WebSynth接続」はWebSynthを使用しない場合の設定書類です。

3. OMS が起動します。AppleTalk が有効になっている場合は「TurnOff」をクリックして AppleTalk を Off にします。

4. MIDI 装置を接続している場合にはスイッチを入れて、「OK」をクリックします。

5. ファイルメニューから「Make Current」を選択します。

OMS の設定が完了しました。

コントロールパネルから「MSE-U77 の設定」を開きます。（MSE-U77 が接続されていない場合は接続してください。MSE-U77 を接続していないとコントロールパネルは開けません。）

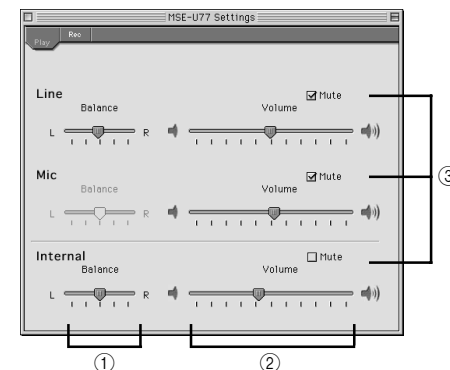
■「再生」側ミキサーについて

① バランス
左右の出力バランスを変更します。
Microphoneはモノラル入力ですので、バランスの調節は必要ありません。

②音量スライダー
再生ボリュームを変更します。

ご注意

「Play」側ミキサーの「Internal」の音量・バランスは「Rec」側と同期していますので「Internal」音声録音中に設定の変更はしないでください。

③ミュート
再生の音声を消します。

■「録音」側ミキサーについて

④Analog Input/Digital Input
外部入力を行う場合、アナログ／デジタルから選択してください。

ご注意

アナログインプット/デジタルインプットの切り替えをする場合は、アプリケーションソフトウェアからの音声出力をいったん停止してから行ってください。

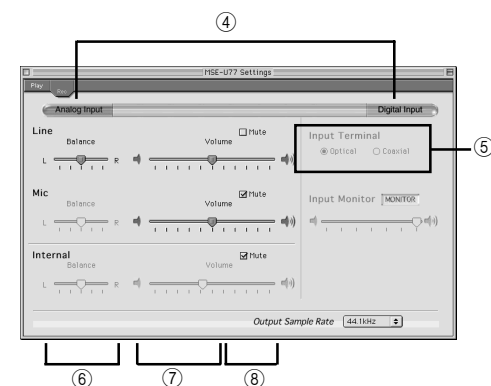
⑤デジタル入力の選択
デジタル入力を使用する際、接続した端子を光(Optical)または同軸(Coaxial)から選択してください。

⑥バランス
左右のスピーカーバランスを変更します。

⑦スライダー
録音ボリュームを変更します。

ご注意

「Internal」録音ボリュームは「Play」側ミキサーの「Internal」で調整してください。

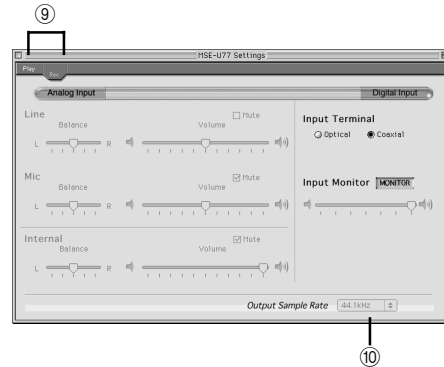
⑧ ミュート
録音の音声を消します。

■ プロパティウィンドウについて

⑨音量の調整
表示するミキサーを再生／録音から選択します。

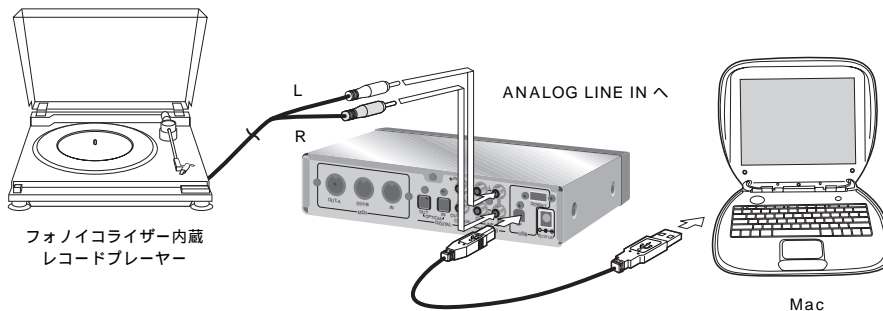
⑩デジタル出力周波数の選択

• Analog Input の場合
WAVE のデジタル出力周波数を 44.1kHz/48kHz から選択してください。

• Digital Input の場合
デジタルインプットのデジタルインモニター出力周波数で、48kHz に固定されます。
デジタルインモニター機能については22から23 ページを参照してください。

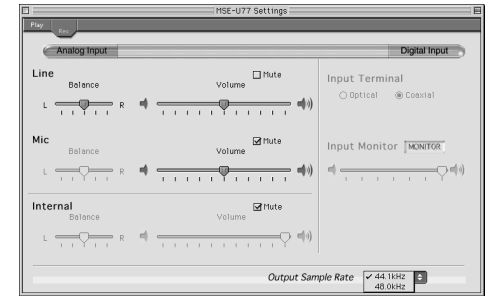
♪ヒント

再生 / 録音のウインドウは、ショートカットキー「Ctrl + M」で切り替えできます。

■ マイクや LINE 入力のアナログ音声を PC に録音する

1.アナログ再生させる機器を図の様に MSE-U77 本体に接続します。

2.MSE-U77 のミキサーパネルを起動します。

3.「Rec」に切り替えます。
「アナログインプット」を選択します。

4.「LINE」「Microphone」「Internal」の中から録音するソースのミュートチェックを外し、他の音声のミュートにチェックをつけてください。

5. 録音ボリュームを調整してご利用のソフトウエアで録音を始めてください。

ご注意

サウンド編集ソフトによってはUSBによる音声入出力をサポートしていない場合があります。あらかじめご利用されるサウンド編集ソフトの開発元に確認してください。

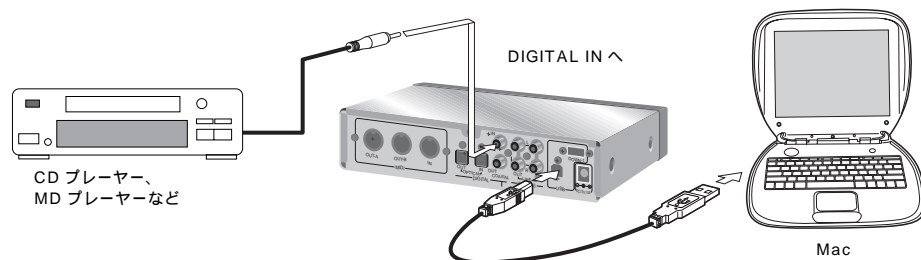
■ Internal 音声の録音について

「LINE」「Microphone」の音声と同時にAIFFファイル等のサウンドファイルを再生し、同時に録音する事が可能です。この場合 Internal の「Play」と「Rec」のボリューム設定は同期しており、調整は「Play」側ミキサーで行います。

ご注意

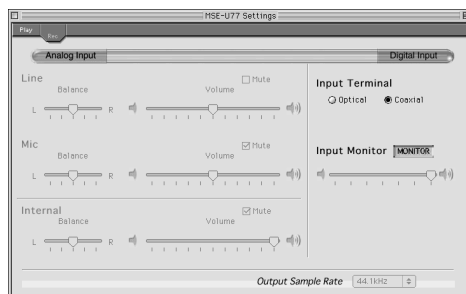
「Internal」音声録音中に「Play」側ミキサーの「Internal」の音量、バランスは変更しないでください。

■ CD や MD のデジタル音声を Mac に録音する

1.デジタル再生させる機器を図の様に MSE-U77 本体に接続します。

2.コントロールパネルから「MSE-U77 の設定」を開きます。

3.「Rec」に切り替えます。

4.「デジタルインプット」を選択します。
光(Optical)または同軸(Coaxial)から接続したデジタル端子を選択します。

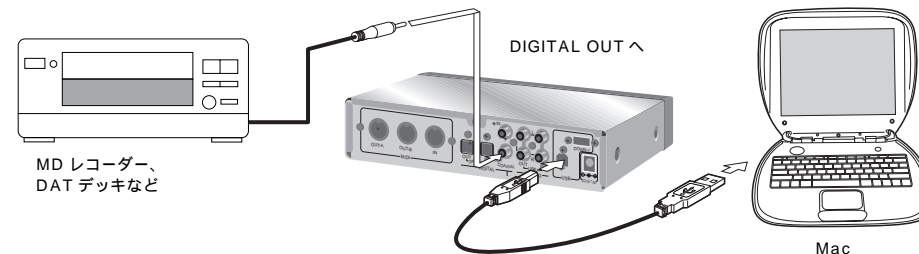
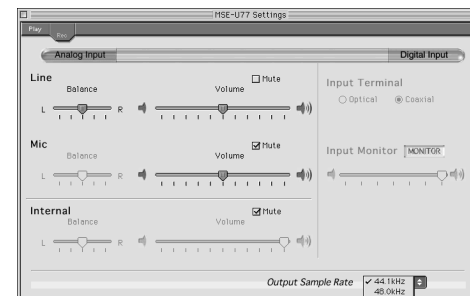
5.接続したデジタル再生機器の音声を再生させ、ご利用のソフトウエアで録音を始めてください。

ご注意

• 著作権保護された音声信号はデジタル入力端子からは入力されません。アナログ入力でご利用ください。
• サウンド編集ソフトによっては、USB による音声入出力をサポートしていない場合があります。あらかじめご利用されるサウンド編集ソフトの開発元に確認してください。

■ デジタルインモニター機能

デジタルインの録音音声をモニターする場合はモニターボタン(Monitor)を押してください。モニターボタン横の音量スライダーを上下する事でデジタルイン音声の録音レベルを変更する事なくモニター音量を調整する事が出来ます。モニターボタンを押している間はデジタルイン以外の音声がミュートされます。復帰する場合はモニターボタンを再度押して解除してください。

■ MD や DAT への音声出力について

1.接続するデジタル機器を図の様に MSE-U77 本体に接続します。

2.コントロールパネルから「MSE-U77 の設定」を開きます。

3.「Rec」に切り替えます。

4.「アナログインプット」を選択します。

5.オプション→プロパティでプロパティウィンドウを開き、「Output Sample Rate」で接続する機器に適応した周波数を選んで、目的の音声を再生させてください。

• 「Rec」側ミキサーが「Digital Input」に設定されていると、デジタルアウトからはデジタルインプットへの入力信号がモニター出力されます。サンプリング周波数は 48kHz です。Mac のアプリケーションソフトウェアからの音声をデジタル出力する場合には「Analog Input」を選択してください。
• LINE や Microphone から入力されたアナログ音声をリアルタイムでそのままデジタル端子からは出力されません。この場合、一旦 AIFF ファイルなどに保存してから出力を行ってください。

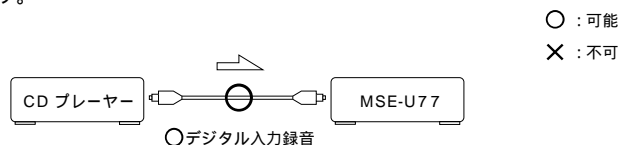
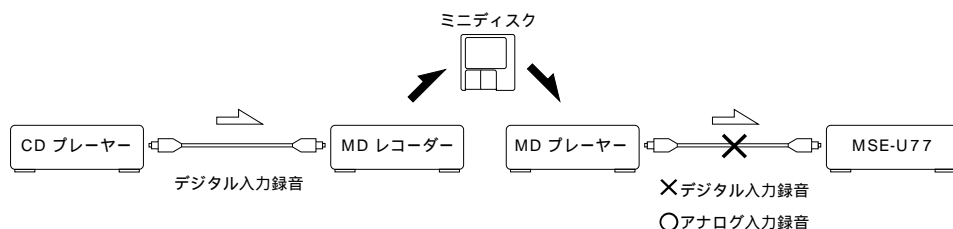
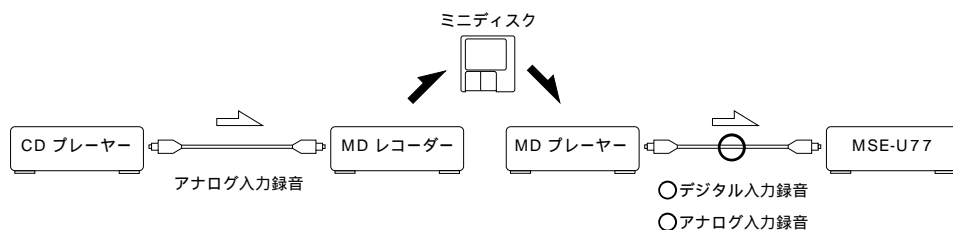
ミキサーの使いかた

■ 本機のコピーガードシステムについて

本機のデジタル入力はコピーガードシステムによって保護されております。
このシステムはデジタル信号をデジタル信号のまま録音することが可能ですが、後述の制限事項がございます。
また、この制限事項は著作権の保護を目的としており、著作権を侵害するような動作を制限するために設けられております。

• CD や MD、DAT などデジタル信号で音声データを記録しているメディアから本機のデジタル入力端子に直接デジタル信号を入力することができます。
ただし、一度デジタル信号からデジタル信号のまま録音された音声データを本機に入力した場合、録音はできません。また、本機を通してのモニタリングもできません。

1.CD から直接デジタル信号で入力された音声データは、本機へデジタル入力することができ、録音・モニタリングも可能です。

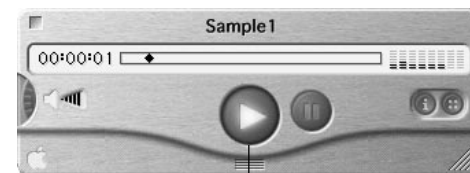
○：可能
×：不可

2.CD からデジタル信号のまま録音された MD の音声データは、本機へデジタル信号のまま入力する事はできません。入力する場合はアナログ信号として入力してください。

3.CD に記録されている音声データを一旦アナログ信号として録音した MD からデジタル信号として本機に入力することは可能です。

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

AIFF と音楽 CD の再生

■ AIFF ファイルの再生

1. QuickTime プレーヤを開きます。

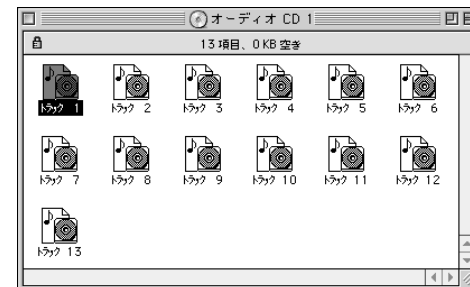
2. QuickTime プレーヤが起動したら、「ファイル」メニューから「ムービーを開く」を選択します。付属の CD-ROM の SampleAIFF フォルダの中にある「Sample」を選択し、「変換」ボタンをクリックします。

3. プレイボタンをクリックすると、AIFF ファイルが再生されます。

プレイボタン

■ 音楽 CD の再生

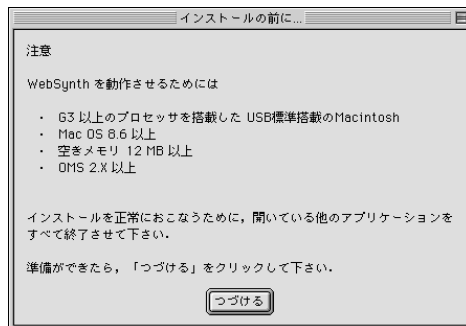
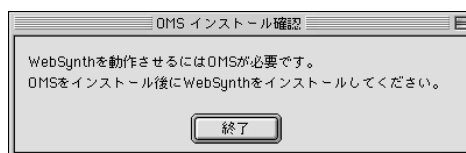
1. 本体にオーディオ CD をセットします。
2. アップルメニューから「コントロールパネル」→「サウンド」を開いて「入力」を選び、「サウンド入力装置の選択」を「内蔵 CD」に設定します。
3. オーディオ CD のオーディオトラックをダブルクリックします。

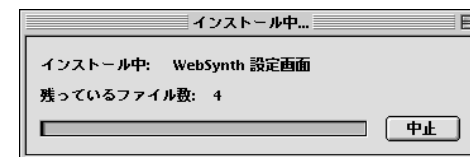
オーディオ CD が再生されます。

※QuickTime コントロールの設定で自動再生の設定になっている場合はオーディオ CD は自動的に再生されます。

MIDI の再生

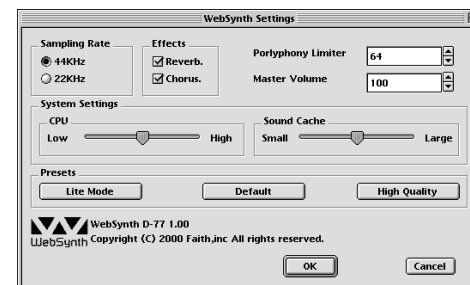
■ ソフトウェア MIDI 音源「WebSynth D-77」のインストール

1. はじめにそれまで実行していたすべてのアプリケーションを終了させてください。
2. CD-ROM のアイコンをダブルクリックしてください。
3. CD-ROM から「WebSynth」フォルダを開き「WebSynth Install」をダブルクリックします。
4. インストール画面にしたがって［つづける］をクリックします。

5. インストーラの指示に従い､「つづける」をクリックします。

※OMSが正常にインストールされていない場合は「OMS インストール確認」画面が表示されます｡「終了」をクリックして、P13 の「OMS のインストール」をご参照ください。

6. インストール先フォルダが、指定できます。通常はそのまま「インストール」をクリックしてください。

7. インストールが正常に終了するとメッセージが表示されます。「再起動」をクリックします。

WebSynth のインストールが完了しました。

■ WebSynth D-77 の設定

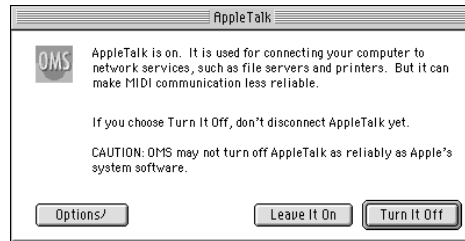
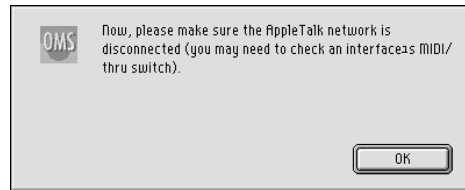
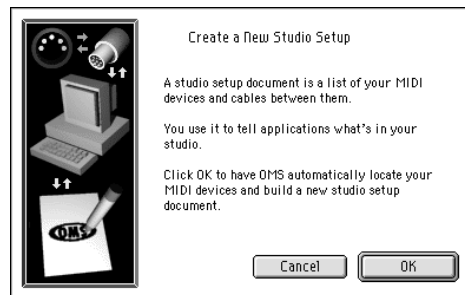
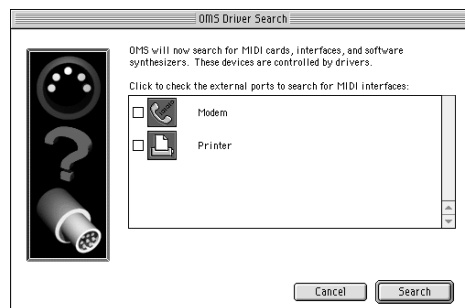
1. 「コントロールパネル」→「WebSynth 設定」を開きます。

2. 各チェックボックス、スライドバーにて WebSynth の設定ができます。

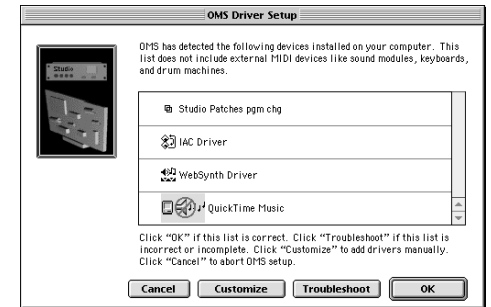
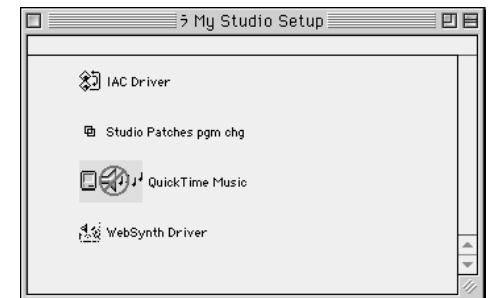
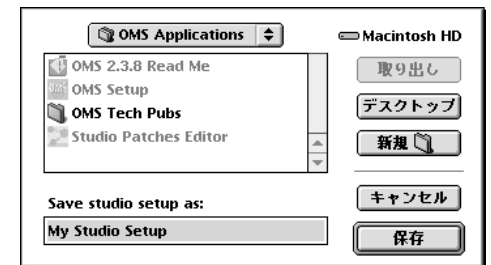
Sampling Rate：WebSynth のサンプリングレートが、44kHz/22kHz に切り換えられます。
Effects：Reverb/Chorus のそれぞれの ON/OFF が切り換えられます。
Polyphony Limiter：WebSynth の最大同時発音数の制限を選択できます。
Master Volume：WebSynth のマスターボリュームを調整します。
CPU：Low から High のスライドバーによって、CPU に与える負荷を制限します。
Sound Cache：WebSynth がオーディオデータを作成するためのバッファのサイズを調整します。通常は Small で使用してください。
Presets：「Lite Mode」 CPU への負荷を軽くした設定に各項目が変更されます。
：「Default」WebSynth の設定を標準的なものに設定します。
：「High Quality」WebSynth の機能を最大限に発揮できる設定になります。

3. 設定変更後は「OK」をクリックすると変更されます。

MIDI の再生

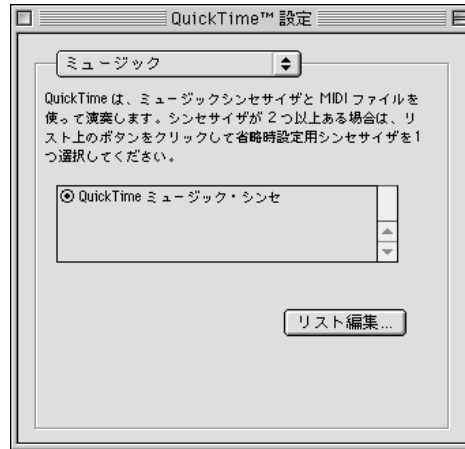
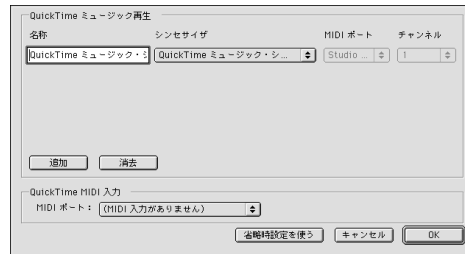
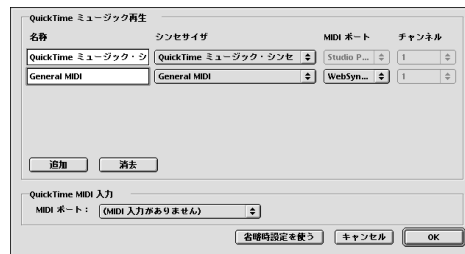
■　OMS の設定

1.「OMS Setup」を起動してください。OMS Setup は、MacintoshHD(OMS をインストールした HDD) の Opcode フォルダ→OMS Applications フォルダの中にあります。
2. 現在接続されている MIDI 装置を検索するため AppleTalk を終了します。「Turn It Off」をクリックします。

3. MIDI装置がつながれている場合はMIDI装置の電源が入っているのを確認し、「OK」をクリックします。

4.「OK」をクリックすると OMS セットアップは現在接続されている MIDI 装置を自動的に検出します。

5.「Search」をクリックします。

MIDI の再生

6. 通常は「OK」をクリックしてください。MIDI 装置の構成をカスタマイズする場合は「Customize」をクリックします。

7. 現在セットアップされているドライバの一覧が表示されます。正しければ「OK」をクリックします。

8.「保存」をクリックし、スタジオセットアップ書類を保存します。

OMS の設定が完了しました。

■ WebSynth を使った MIDI の再生

ソフトウェア音源に WebSynth を使用して、QuickTime プレーヤで MIDI ファイルを再生します。

1.「コントロールパネル」→「QuickTime設定」を開き、ポップアップメニューから「ミュージック」を選択します。

2.「リスト編集」をクリックします。音源の設定画面が表示されます。

3.「追加」ボタンをクリックし、音源を追加します。シンセサイザを「GeneralMIDI」に、MIDIポートを「WebSynth」に設定します。

4.「OK」をクリックします。

MIDI の再生

5. リストで「GeneralMIDI」のラジオボタンをクリックします。

6. ウインドウ左上のクローズボックスをクリックして QuickTime 設定を閉じます。

7. QuickTime プレーヤを起動して、「ファイル」メニューから「ムービーを開く」を選択し、MIDI ファイルを選択、「変換」ボタンをクリックします。

※サンプルの MIDI ファイルが CD-ROM の SampleMIDI フォルダにあります。

8. QuickTime ムービーとして変換された MIDIファイルを保存します。「保存」をクリックします。

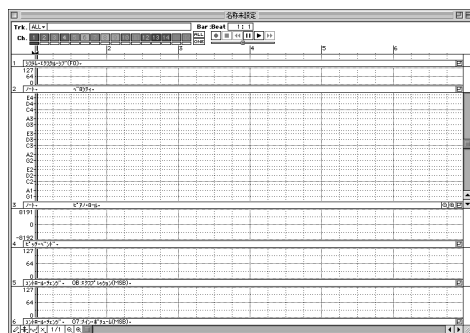
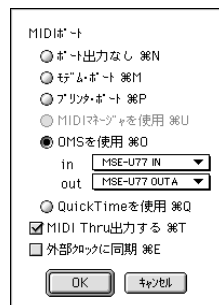
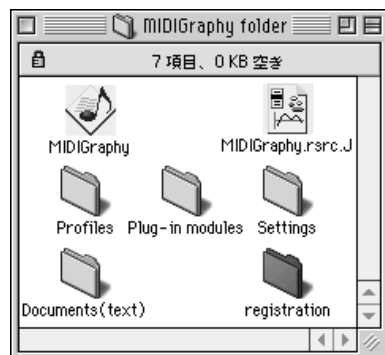
※デスクトップなど、CD-ROM 以外の場所に保存してください。

9. 再生ボタンをクリックします。WebSynth を使用して MIDI ファイルを再生できるようになりました。

♪ヒント

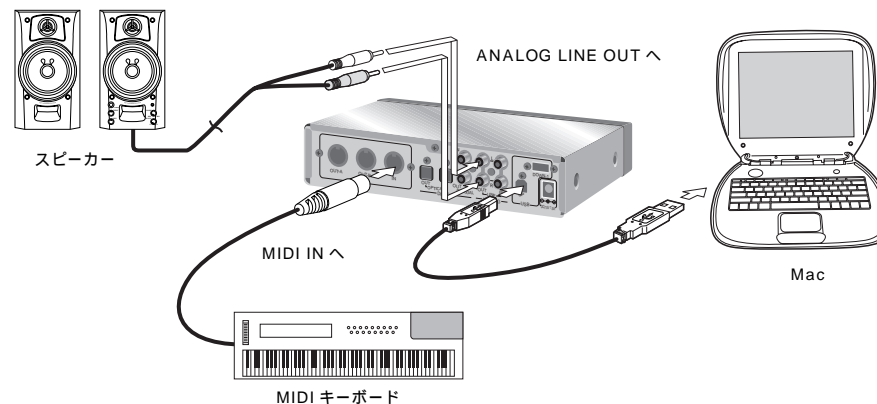
QuickTime プレーヤは GM 音源のみをサポートしていますので、付属の CD-ROM の Demo ファイルは本来の音色では再生されません。

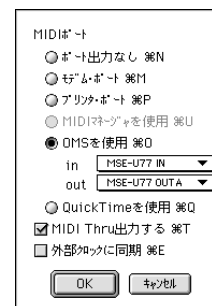
MIDI の再生

■ MIDIGraphy を使った MIDI の再生

その他の機器との接続

■ MIDI 機器の接続とデバイスの設定

● MIDI キーボードの音声を MSE-U77 から鳴らす。

1. 図の様にキーボードとアンプ内蔵スピーカーを MSE-U77 に接続します。

2. MIDI を再生できるソフトウエアを起動してデバイスの設定を行います。

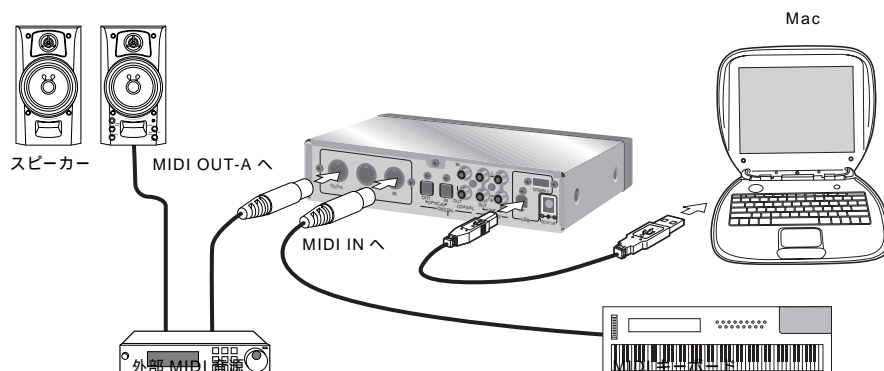
   デバイスの設定方法についてはご利用のソフトウエアのマニュアルを参照してください。
   (例として製品に同梱している MIDI Graph で設定します)

3.MIDI Graphを起動し、ファイルメニューからを「ポートの設定」を選択します。
「OMSを使用」をクリックし、IN、OUT それぞれを次の様に設定します。

ご注意

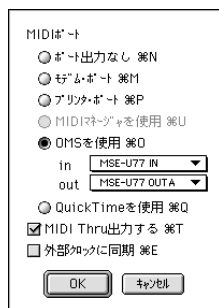
• MSE-U77 は同梱のソフトウエア MIDI 音源を使用します。Websynth D-77 のインストールについては P.26 を参照してください。
• ソフトウエア MIDI 音源を利用してリアルタイム MIDI IN は実現出来ません。
リアルタイム MIDI IN を行なう場合は、外部 MIDI 音源を別途購入してください。

その他の機器との接続

● **MIDI キーボードの音声を外部 MIDI 音源から鳴らす。**

1. 図の様にキーボードと外部 MIDI 音源を MSE-U77 に接続します。

2. MIDI を再生できるソフトウエアを起動してデバイスの設定を行います。

   デバイスの設定方法についてはご利用のソフトウエアのマニュアルを参照してください。(例として製品に同梱している MIDI Graph で設定します)

3. MIDI Graphを起動し、ファイルメニューからを「ポートの設定」を選択します。「OMSを使用」をクリックし、IN、OUT それぞれを次の様に設定します。

ハードディスクレコーディング

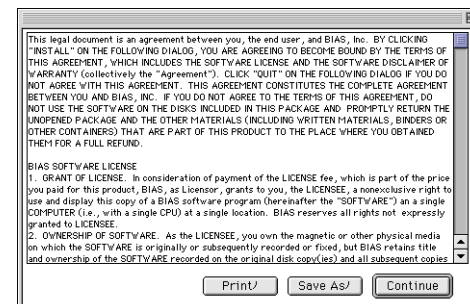
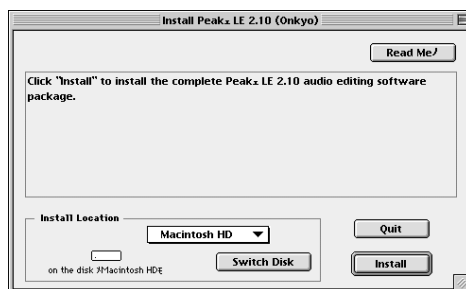
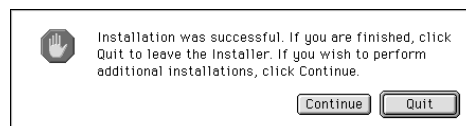
■ Peak le について

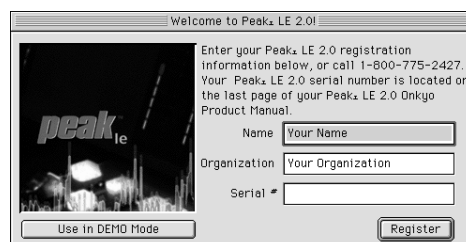
Peak le は BIAS 社（米国）が開発した Macintosh 用波形編集ソフトウェアです。サンプルレベルの波形編集から Premiere プラグインを使ったエフェクト処理機能に対応するので MacOS 上での標準的なソフトウェアとして世界中のユーザーに使用されています。

■ Peak le のインストール

1. 本製品 のインストールを行う前に、ウイルスチェックソフトを無効にして下さい(インストールされている場合のみ)。また MacOS 以外の機能拡張書類は全て無効にしてからインストール作業を行ってください。

2. 付属の CD-ROM から「Peak 2.1」フォルダを開き「Install Peak ɪ LE 2.10c 」を、ダブルクリックして下さい。
3. 「Continue」ボタンをクリックして下さい。

4. ライセンス事項が表示されます。内容にご同意の上、「Continue」ボタンをク リックしてください。

5．インストール画面が表示されます。「Install」ボタンをク リックします。

6．インストールが完了しました。「Quit」ボタンをクリックして下さい。

7．最初の起動時に所有者情報（氏名‐ Name / 所属‐ Organization ）とシリアル番 号（Serial #）を入力する必要があります。その場合は3 つの欄にローマ字/数字にて入力してください。シリアル番号（**BPL-1120680040**）は、取扱説明書の 最終頁にも記載されています。所 属‐ Organization の欄はお名前でも結構です。入力が終了したら右下の「Register 」ボタンをクリックします。

ヒント

日本語入力に ATOK を使用されている場合、正確にシリアル No を入力しても登録できないことがあります。その場合は、ことえりに切り替えてから入力してください。

※ Peak le の詳細な情報は CD-ROM の「Peak 2.1」フォルダの中にある PDF ファイルに記載されています。PDF をご覧頂くにはAdobe 社の Acrobat Reader 日本語版が必要です。

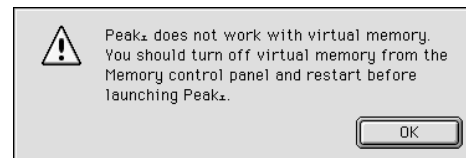
・Peak2.0‐ Japanese.pdf（Peak2.0 シリーズ日本語マニュアル）
・Peak 2.10 Addendum_J.pdf（Peak2.1 シリーズ日本語追補マニュアル）

■ Peak le によるレコーディング

1．Peak le（PPC）を起動します。

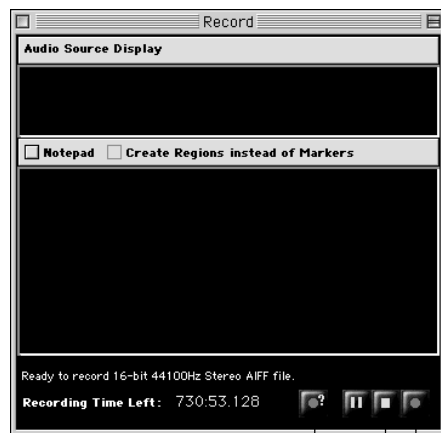
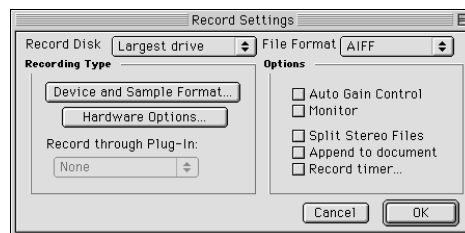
ご注意

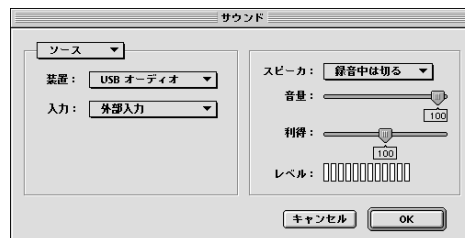
この画面が表示された場合は、「OK」をクリックし、いったん終了した後にコントロールパネルの「メモリ」にて「仮想メモリ」を「切」に設定し、再起動後にご使用ください。

2．

3．Audio メニューの Sound Out から「USB オーディオ」または「内蔵」を選択します。

4．ツールバーのレコーディングボタンをクリックします。

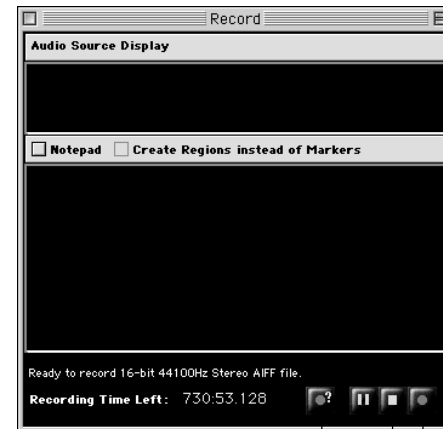
レコーディングボタン

5. Record画面の録音調整ボタンをクリックします。

6. Record Settings画面の「Device and Sample Format...」ボタンをクリックします。サウンド画面が開きます。

7. サウンド画面のポップアップメニューを「ソース」にし、「装置」を「USBオーディオ」にします。設定が完了したら、「OK」をクリックします。

ご注意

この画面が表示された場合は、「OK」をクリックし、いったん終了した後にコントロールパネルの「メモリ」にて「仮想メモリ」を「切」に設定し、再起動後にご使用ください。

ハードディスクレコーディング

8. サウンド画面のポップアップメニューから「サンプル」を選択します。「サイズ」を「16ビット」に、「入力」を「ステレオ」に設定します。

9. レコーディングの準備ができたら「レコーディング」ボタンをクリックします。

10. 「ストップ」ボタンをクリックするとレコーディングしたファイル(AIFF)を保存できます。「保存」をクリックしてください。

Peak le のご登録とアップグレードについて

■ **Peak le のご登録について**
本製品に付属する「Peak le」をご登録ください。ご登録ユーザー様へは今後のアップデート情報を株式会社カメオインタラクティブよりご連絡させて頂きます。下記内容をご記入の上、「アップグレードお問い合わせ先」まで郵送、FAX 、E-mail のいずれかでお送りください。
※本製品に付属の「Peak le」のテクニカル・サポートについては当社サポートセンターまでご連絡ください。

- 製品名：Peak le 2.1
- Peak le バージョン：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- Peak le シリアル番号：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- ユーザー名：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- 性別：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- 生年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- 住所：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- 電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- E-mail アドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿
- お買い上げ日：＿＿＿＿＿＿＿＿（必須）
- お買い上げ店名：＿＿＿＿＿＿＿＿

■ **「Peak スタンダード版」アップグレード案内**
本製品に付属の「Peak le 」からは「Peak ST 」へアップグレードして頂くことができます。
アップグレード価格 ....22,575 円(税込金額)
※これは 2000 年 4 月現在の価格です。アップグレードされる時期により価格が変更している場合があります。予 めご了承ください。
ご希望される「Peak le」ユーザー様は下記宛先までお問い合わせください。アップグレードに必要な書類を送付させて頂きます。

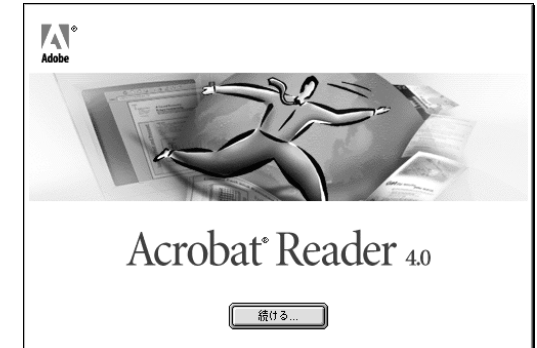
アップグレード 専用お問い合わせ先：
〒 540-0013 大阪市中央区内久宝寺町 4-2-9
株式会社カメオインタラクティブ アップデートサポート
TEL: 03-3371-5975 (東京)、06-6762-0321 (大阪)、FAX:06-6764-5514 (大阪)
E-mail: update@cameo.co.jp

追加機能及び基本性能：
サンプラー対応、QuickTime ムービー 同期、SMPTE 同期、Loop サーファー、バッチプロセッサー
最大ボリューム位置 / 値の計算、Meter 表示の変更、Export Regions 、Export as Text 、Markers to Regions 、Guess Tempo 、Show Marker Times 、Shortcuts &Toolbar 、Movie Sound Tracks 、DAE 録音、Audiosuite プラグイン(Digidesign 製 PCI オーディオカード使用時)

DSP メニュー：
Add 、Amplitude Fit 、Change Duration 、Change Pitch 、Convolve 、Crossfade Loop 、Find Peak 、Loop Tuner 、Mono to Stereo 、Stereo to Mono 、Mondulate 、Panner 、Phase Vocoder 、Rappify 、Repair Clicks 、Remove DC Offset 、Thresh-old

Peak のより詳しい内容は以下の URL をご参照ください。
http://www.cameo.co.jp/product/peak/peak.htm

オンラインマニュアルの使い方

付属の CD-ROM に入っているオンラインマニュアルは PDF 形式のファイルですので、これを読むためにはまず Acrobat Reader がインストールされていることをご確認ください。
インストールされていない場合は、まず下記の「■ Acrobat Reader のインストール」にしたがって操作を進めてください。

■ Acrobat Reader のインストール

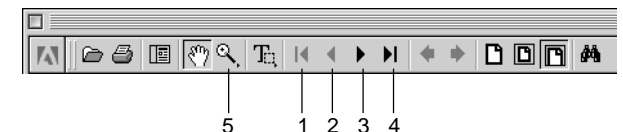
1. 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
2. CD-ROM を開きます。
3. 次に「Adobe」フォルダを開きます。
4. フォルダ内にある「Japanese Reader Installer」をダブルクリックします。
   ファイルの抽出が始まります。
5. あとは画面の指示にしたがってください。次の画面へ行くには「続ける ... 」をクリックします。

■ オンラインマニュアルの起動方法

付属の CD-ROM を開き、menu.html ファイルをダブルクリックしてください。
または、付属の CD-ROM から目的のマニュアルファイルを選択して起動してください。

■ Acrobat Reader の基本操作

メニューバーとツールバー
オンラインマニュアルを起動すると、画面の上部に図のような画面が表示されます。

1. **先頭ページを開きます。**
2. **前のページに戻ります。**
3. **次のページへ進みます。**
4. **最後のページを開きます。**
5. **ページを拡大表示します。**

その他
メニューバーの中から「ヘルプ」を選び、「Reader オンラインガイド」を選択します。
操作方法を詳しくお知りになりたい場合は、このオンラインガイドをご利用ください。

主な仕様

WebAudio

Audio 部	音声発音方式	WebAudio 音声圧縮
Synth 部	音声発音方式 パート数 最大発音数 再生レイト WAVE サンプリングレート 波形サイズ 音色数	PCM 16 トラック 256 音 22.05/44.1 kHz 切り換え 44.1 kHz 2.3 MB 674
Effect 部	ドラムセット エフェクトタイプ	15 リバーブ、コーラス
フィルタ	エフェクトコントロール	チャンネル毎
その他	ダイナミックフィルタ 対応 MIDI メッセージ MIDI IN MIDI IN 速度 対応 OS 推奨 CPU 必要メモリ	TVF GM/GS/＋α 可 50-500 ms 以下 MacOS 8.6 以降 G3 233 Mhz 以上 64 MB 以上

WAVIO Sound Engine

型番	MSE-U77
形式	WebAudio 対応 USB デジタルオーディオプロセッサー
接続方式	USB (Universal Serial Bus Ver. 1.0)
サンプリング周波数	
デジタル IN	32/44.1/48 kHz 対応
デジタル OUT	44.1/48 kHz 切り替え
周波数特性	0.3 Hz ～ 20 kHz (+0/-0.5 dB, LINE OUT)
SN 比	100 dB (A-Filter)
全高調波歪率	0.002 % (1 kHz, 0 dB)
出力レベル	2.0 Vrms
ライン入力レベル	2.0 Vrms
マイク入力感度	2.5 mVrms
電源	DC 7.5 V、1500 mA（専用 AC アダプター）
消費電流	126 mA
外形寸法（幅×高さ×奥行）	205 x 46.7 x 165 mm
質量	700 g

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
機器を認識しない。	• 接続が不完全。	• 取扱説明書の「接続のしかた」を参照して、USB ケーブルを通じて機器を PC に確実に接続してください。
	• 接続しているハブに問題がある。	• ハブを経由して接続している場合は、ハブが動作しているかどうかを確認してください。
	• デバイスの一部を認識しない	• USB を再接続してみてください。
録音モード切り替え時に PC が不安定になる。	• WAVE 音声出力を行ったまま切り替えを行った。	• Windows の仕様上、音声出力を行ったままモード切り替えを行うと、OS が不安定になる可能性があります。モードを切り替える時には、WAVE音声出力を停止してください。
音声が出ない。	• ミュートされている。	• Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして再生ミキサーパネルを開き、ミュートのチェックを外してください。
	• 出力レベルが小さい。	• Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして再生ミキサーパネルを開き，各音声出力のレベルを適正な値に調整してください。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルにある「マルチメディアのプロパティ」を開き、「再生」の「優先するデバイス」から USB オーディオデバイスを選択してください。それでも出力されない場合は「優先するデバイスのみ使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。
	• デジタルインモニター機能を使用している。	• デジタル入力モード時にデジタルインモニター機能を使用していると、WAVEやアナログ入力音声は出力されません。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、デジタルインモニター機能をオフにしてください。
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• ラインアウト端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。また外部アンプやスピーカーの電源やボリュームを確認してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
ヘッドホンが聞こえない	• ヘッドホンボリュームが小さい。	• ヘッドホンはミキサーパネルに加え、前面のヘッドホンレベル調整ツマミで音量を調整できます。ツマミの位置を適当な場所に調整してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。 • 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックしてミキサーパネルを開き、「バランス」スライドバーで調整してください。 • 接続している外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。
CD-ROM ドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROM ドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムが CD-ROM からのデジタル音声ストリーム出力に対応していない場合、USB経由ではCD-ROMドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROM ドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調整してください。
ゲームの BGM が出力されない。	• BGM に CD の音声が使用されている。	• 「CD-ROM ドライブからの音声が出力されない」の項目を参照してください。
マイク音声が入力できない。	• マイクの接続が不完全。 • マイクの適合性に問題がある。 • マイクがミュートされている。 • マイク入力ボリュームが小さい。 • デジタルインモードになっている。	• マイクを確実に接続してください。 • 標準プラグのマイクをご使用ください。 • Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、ミュートのチェックを外してください。 • Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、ボリュームを適正な値に調整してください。 • デジタルインモード時にはアナログ入力できません。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、アナログインモードに変更してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。 • 外部機器から音声が出力されていない。 • ライン入力がミュートされている。 • ライン入力ボリュームが小さい。 • デジタルインモードになっている。	• 外部からライン入力に確実に接続してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。 • 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。 • Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、ミュートのチェックをはずしてください。 • Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、ボリュームを適正な値に調整してください。 • デジタルインモード時にはアナログ入力できません。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、アナログインモードに変更してください。
デジタル出力が外部機器に入力されない。	• デジタルインモードになっている。 • 外部機器のサンプリング周波数が適合していない。 • 外部機器との接続に問題がある。	• デジタルインモード時は PC からのデジタル出力はできません。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、アナログインモードに変更してください。 • デジタル出力のサンプリング周波数は 44.1kHz と 48kHz の選択になっています。お手持ちの機器の取扱説明書を参照して、出力サンプリング周波数に対応しているかどうかお確かめください。 • 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。
録音できない。	• 他の音声入力デバイスが使用されている 。	• コントロールパネルにある「マルチメディアのプロパティ」を開き、「録音」の「優先するデバイス」から USB オーディオデバイスを選択 してください。それでも録音できない場合は「優先するデバイスのみ使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
デジタル入力信号が録音できない。	• アナログインモードになっている。	• アナログインモード時、デジタル入力はできません。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音のミキサーパネルを開き、デジタルインモードに変更してください。
	• 入力信号がコピーガードされている。	• 本機のデジタル入力はコピーガードシステムにより保護されているため、コピー不可に設定されているデジタル信号は録音できません。詳しくは 22 ページをご参照ください。
	• 入力ポートが異なっている。	• デジタル入力は光あるいは同軸入力のいずれかを選択できます。Windows のタスクバーにあるスピーカーのアイコンをダブルクリックして録音ミキサーパネルを開き、機器を接続しているポートに設定してください。
	• 外部機器との接続に問題がある。	• 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合は、ケーブルをご確認ください。
音が途切れる。	• 音声出力・入力中に、負荷のかかる作業をしている。	• 録音等をされる場合には、CPU に負担のかかる作業は控えてください。
	• 音声出力・入力中に、他のUSB機器を抜き差しした。	• 音声の再生・録音中に他の USB 機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。
	• CPU の処理が再生に追いついていない。	• CPU が推奨スペックを満たしていない場合は期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPU が推奨スペックを満たしている場合でも CPU が非常に高負荷の状態である場合は音が途切れることがあります。この場合は他のアプリケーションを全て終了してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
MIDI 出力ができない。	• 他の MIDI 出力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルにある「マルチメディアのプロパティ」を開き、「MIDI」の「MIDI 出力・単一の機器」から SE-U77A あるいはBを選択してください。また、アプリケーションソフトウェアによっては、ソフトウェア上で MIDI 出力デバイスの設定ができるものがあります。ご使用になっているソフトウェアの取扱説明書やヘルプをご参照ください。
	• 外部機器との接続に問題がある。	• 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。
MIDI 入力ができない。	• 他の MIDI 入力デバイスが使用されている。	• アプリケーションソフトウェアによっては、ソフトウェア上で MIDI 入力デバイスの設定ができるものがあります。ご使用になっているソフトウェアの取扱説明書やヘルプをご参照ください。
	• 外部機器との接続に問題がある。	• 外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。
雑音が多い。	• テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	• テレビなどから十分に離して置いてください。
	• マイクから雑音が入力されている。	• マイクから雑音を拾うことがありますので、マイクを使用しないときにはミキサーパネルを開いてマイクのボリュームを絞ってください。
	• 各入出力端子の接続が不完全。	• 本書 12、13 ページを参照して確実に接続してください。

製品の故障により正常に録音ができなかったことによって生じた損害（CDのレンタ ル料等）については保証いたしかねます。大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できる事をご確認の上、録音いただきますようお願いいたします。

♪音のエチケット
楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。
特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

アフターサービスについて

■ 保証書について

この製品には、保証書を別途添付しております。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときには、商品と保証書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店または当社サポートセンターにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（MSE-U33 または MSE-U33HB）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店または当社サポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.

メモ：

Peak le シリアル No.
BPL-1120680040

電話でのお問い合わせ：072-831-7305

サポート時間：月～金曜日
（祝日および当社指定休日を除く）
10:00 ～ 12:00、
13:00 ～ 17:00

FAX でのお問い合わせ：**03-5204-3188**

手紙でのお問い合わせ、修理品のご送付：
〒 572-8540
大阪府寝屋川市日新町　2 番 1 号
オンキヨー株式会社
マルチメディア事業部
サポートセンター宛

E-mail でのお問い合わせ：vox@onkyo.co.jp

製品に関する最新情報などは：
ホームページアドレス
http://mmc.onkyo.co.jp/
をご参照ください。

※「WebSynth」に関する最新情報は、
http://www.faith.co.jp/
をご参照ください。

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2ー1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

SN29342919

Printed in Japan
D0007-2